

(別紙)

『ブリ奨学金制度』の調査及び研修の概要 ～人口減少対策～

視察地 長島町役場

鹿児島県出水郡長島町鷹巣 1 8 7 5 番地の 1 (☎ 0996-86-1111)

視察者 由利敏雄 藤田 太 和田正幸 水野孝典 以上 4 名

視察内容

I 長島町の概要

長島町は鹿児島県の最北端に位置し、島の北部一帯は雲仙天草国立公園に指定されており自然に恵まれた地域である。町内は五つの有人島のほか、大小 23 の島々が点在し、総面積は 116,2 km² である。昭和 49 年 4 月に、黒之瀬戸大橋の開通により隣町の阿久根市と結ばれ半島化した。現在は獅子島だけが有人離島であり、離島振興地域に指定されている。また町内では、通勤、通学など出水、阿久根方面への路線バスがあり、町内においては、

巡回バス本島内 3 台、獅子島 1 台で多くの町民に利用されている。姉妹都市として韓国の江華群、吉祥面と交流している。人口は国勢調査によると平成 2 年は 13,801 人、平成 27 年は 10,431 人、そして令和 2 年 1 月現在では 9846 人となっている。



II 調査研修テーマ『ブリ奨学金制度』『人口減少対策』 長島町役場

1 視察の目的

本市においても人口減少が加速化し、中でも若者が地域に定着しない課題がある。長島町が平成 28 年から導入された『ブリ奨学金制度』については、平成 29 年 10 月に会派で視察した。人口減少対策、とりわけ若者の定着に向けての政策に興味深いものがあった。この制度がその後の状況はどうなっているのか。また、人口減少対策や出生率増加への成果などの取り組みについて調査・研究し、本市の政策に生かしたい。

2 取り組みの概要

(1) 制度導入の背景

少子高齢化が進む中で、出生率も伸びず人口減少がまちの大きな課題となっていた。町内には 5 つの中学校と 9 つの小学校はあるが、近くに高等学校や大学はなく

て近隣の高等学校に通学するには最低 1 時間かかり、通学や下宿などで費用がかかり、子育ての負担にも繋がっているという現状があり、毎年 100 名程の中学生が卒業するが、地元に戻ってくる若者は少なく、出生率の増加や人口流失にストップをかけるためこの制度を導入した。

(2) ぶり奨学プログラム

「ぶり奨学プログラム」は、高校・大学等の進学のために借りた「ぶり奨学ローン」を卒業後返済した場合に、「ぶり奨学基金」から返済相当額を補填する制度である。元金分については生徒・学生が長島町に戻ってきた場合に、利息分については戻ってきたかどうかに関わらず補填する。出世魚で回遊魚の「ぶり」にちなみ、生徒・学生の方々が「成長して戻ってきて」との願いが込められている。全ての町民が対象になっている。



ア 「ぶり奨学ローン」

通常の金利より優遇された「ぶり奨学ローン」は金融機関と協定を結んでいる。

高校生 30,000 円/毎月 大学生 50,000 円/毎月

イ 「ぶり奨学金制度」

ぶり奨学金から元金および利息相当額を補填する

ウ 「ぶり奨学寄付制度」

事業者やふるさと納税等から基金に寄付する

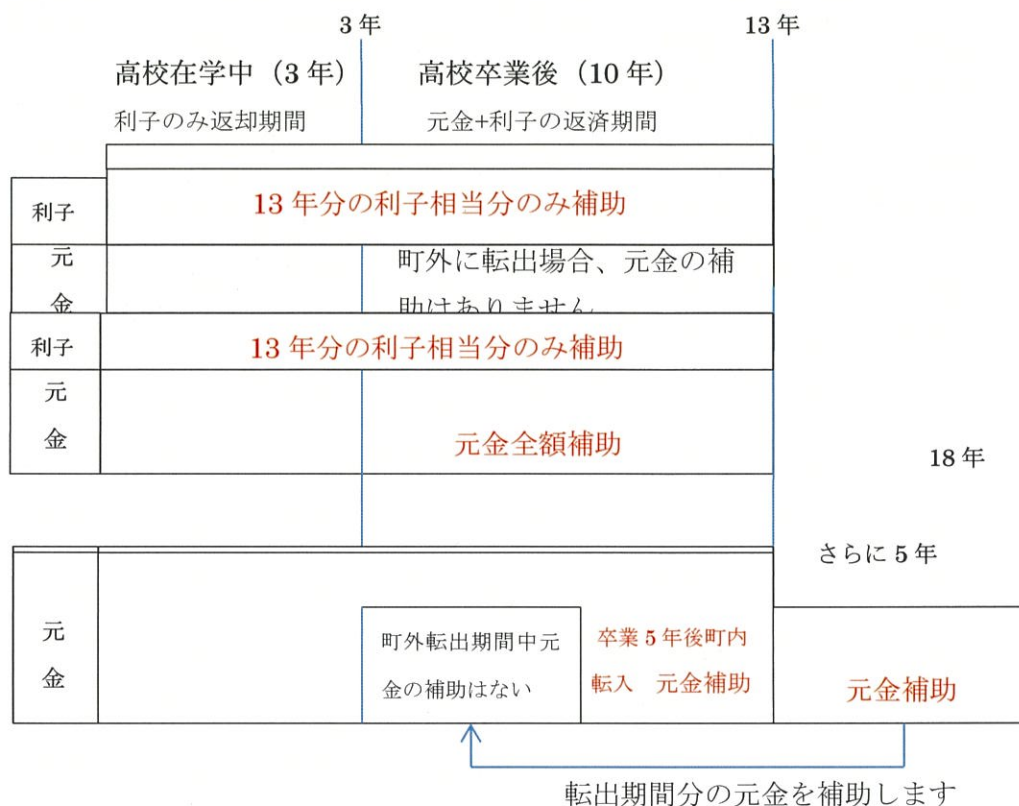
エ 「ぶり交流事業」

出身の生徒・学生や卒業生の交流事業

オ 「ぶり就職起業支援事業」

地域における就職・起業を支援する

(3) 金融機関から高校在学時に「ぶり奨学ローン」を利用した場合



3 視察からの検証内容

(1) 基金の枯渇は心配ない。その理由としては、ふるさと納税で『ぶり奨学金』にと、内容を指定することで確保できている。28 年度 1 億円からスタートした基金は、令和元年で約 1 億 8 千万円になっている。

(2) 申請者の実績は、平成 28 年度から令和元年 12 月 31 日現在での累積は、182 人である。

高校生・119 人、短大・大学生・44 人、専修学校等・17 人、大学院・2 人
※実施 4 年目であるが、既に 6 名が町内企業に就職している。

(3) 制度導入後の保護者・町民・子どもたちの評価は大変高い。

(4) 人口減少対策

ア 空き家改修費支援事業

本町における空き家の有効活用を通して、町内への移住及び定住による地域の活性化等を図るため、空き家改修に要した経費に対して補助金を交付する。

- ・改修費の補助額・・・最大 333 万円（改修費 500 万円の 3 分の 1）
- ・平成 30 年 1 月から空き家改修関連の転入者（U ターンも可）

I ターン 32 名・U ターン 23 名 合計 55 名

イ 誕生祝金制度

1 子 (10 万円) 2 子 (20 万円) 3 子 (30 万円)

ウ 婚活イベント (町主体の事業 1 泊 2 日・・・宿泊費、飲食は実行委員会が負担)

・ウエディング長島・・・平成 19 年～29 年 カップル数 89 (成婚者 18 人)

・アイランドで愛・・・平成 24 年～令和元年 カップル数 6 (成婚・移住 6)

III 所見

長島町は鹿児島県の長島と獅子島の 2 島からなる離島である。合計特殊出生率は 2.06 で全国市町村中 17 番である。ぶり奨学金は、行政が民間の金融機関を募り、鹿児島相互信用金庫が創設したものである。卒業後 10 年以内に帰町した場合、返済を事実上免除する。財源としてふるさと納税による寄付金を充てているため、枯渇することはない。同町では婚活も盛んで、町職員が手厚く仲介の労をとる。職員の接遇もよく、役場に入った私たちを、見渡せる範囲のほぼ全職員がこちらに笑顔と会釈を向けてくれた。また、九州本土から長島町へ入ると、沿道には両側に花壇が作られ、維持され、温かいまちづくりの息吹が伝わり、心温まるものがあつた。人口減少の対策、とりわけ若者の定着に向けて町あげでの意欲的な取り組みに感銘した。本市においても、長島町のように、より具体的な施策をしていく必要がある。

『世界を視野に入れた新養蚕産業』の調査及び研修の概要

視察地 山鹿市役所

熊本県山鹿市山鹿 987-3 (☎ 0968-44-0373)

視察者 由利敏雄 藤田 太 和田正幸 水野孝典 以上 4 名

視察内容

I 山鹿市の概要

本市は、平成 17 年 1 月 15 日に山鹿市、鹿北町、菊鹿町、鹿本町及び鹿央町の 1 市 4 町が合併し、新たな山鹿市として誕生した。熊本県の北部に位置し、菊池川流域に豊かな田園地帯が広がり、その中心部に市街地をなし、幹線道路網が放射線状に発達している。気候は温暖であり、肥沃な土地に恵まれた豊かな自然と、歴史、文化の薫り高い地域である。総面積は、229,69

km²で県全体の 4.0%を占めている。土地の利用状

況は、農用地割合が県全体の構成比より高く、市北部では森林の割合が高くなっている。人口は国勢調査によると平成 17 年は 57,726 人、27 年は 52,264 人、そして令和 2 年 1 月現在では 49,660 人となっており、将来人口も減少傾向が続くと予測されるとともに、少子高齢化の傾向がさらに強くなるといわれている。



II 調査研修テーマ『世界を視野に入れた養蚕産業』

1 視察目的

本市では、平成 28 年 4 月に養蚕飼育棟をオープンし、平成 31 年度末までに「周年養蚕飼育技術の確立」と「高機能性シルクの研究」を推進。収益性を確保し、持続可能な経営基盤を構築する。令和 2 年度からは設立組織（新シルク産業創造機構・仮称）を核に、自立した経営を行いとの計画の基に進められている。本市と同じ取り組みを行っている『山鹿シルク』を調査・研究することで、本市の政策に生かしたい。

2 新シルク蚕業構想

『SILK on VALLEY YAMAGA』とは、この名前には、姫御前岳や国見山、八方ヶ岳に囲まれた盆地（VALLEY）に位置する山鹿から、日本の養蚕・シルク（SILK）産業を再興し、世界のシルク産業拠点として羽ばたくという願い、決意を込めている。

『SILK on VALLEY YAMAGA』プロジェクトの推進によって、山鹿市では、大きく四つの効果を見込んでいる。

(1) 桑園・工場の拡大による遊休地・耕作放棄地の解消。

(2) 工場の稼働、関連産業が集積することで生まれる地元雇用の創出や、若者などの定住促進。

(3) 地場企業などと連携した、6次産業化の推進や地域産業の活性化。

(4) 世界に誇れる新たな付加価値と高機能を備えた『山鹿シルク』によるジャパンブランド力の向上と交流人口の増加。



養蚕工場での直接的な雇用増などの効果だけでなく、山鹿市における「まち・ひと・しごと」づくりの全てに寄与する。まさに地方創生のモデルとなる取り組みへと育てていきたいと考えている。企業だけでなく、国、県、市など様々な公的な協力や、市場開拓から商流のコントロールまでを日本国内のトップ企業と共同で行うことで、新たなシルク産業をビジネスとして成立させる。

3 天空桑園

山鹿市小坂地区の標高 600mの山上に広がる農地面積 25ha の巨大桑園。この山上の農地（天空桑園）は、当時牧草地として造成された数年間以降、平成 26 年までの二十数年の間、荒れ果てた耕作放棄地となっていました。その荒れた広大な畑地を桑園として造成した。その理由は、山鹿市内の耕作放棄地、遊休農地をひとつでも多く再生し、優良の農地として甦らせること。さらに、農業の影響を非常に強く受ける養蚕業において、平地から桑園まで遠く離れていることで殆ど農薬の影響を受けずに、カイコに優しいオーガニックな桑の葉を育てることが可能になる。平成 28 年 7 月時点、桑園面積約 25ha のうち約 9 割の造成地に 8 万本の桑苗の作付が完了。この『天空桑園』の土壌や気候など様々な条件を考慮し、桑の品種には「はやてさかり」を選定した。



4 山鹿工場の特徴

(1) 世界初、最大級の養蚕施設

山鹿工場の敷地面積は、13,732 m²、建物の床面積は、4,174 m²/1,260 坪である。
工場内部には、カイコの餌となる桑葉を加工して、人工飼育にする最新設備も備わっており、人工飼育の調製・開発から繭の生産までを一貫して行うことができるなど、世界的に見ても最新鋭・最大規模の周年無菌養蚕工場である。

(2) 完全無菌環境の空調で管理された最先端の飼育設備

カイコは、病気にとても弱い生き物で、その飼育環境次第では繭の生産効率を大きく左右することになる。この山鹿工場では、従来の技術をさらに改良した最新の設備を導入し、常温・常湿・無菌レベルを調整可能とするなど、カイコの飼育に併せた最適な環境を作り出すことのできる工場になっている。その内部は、クラス 10,000 のクリーンレベルを誇っている。



(3) 年間を通した養蚕が可能

養蚕に不可欠な桑の葉は、春から秋までしか収穫ができないこと、またカイコも冬場低温期では飼育できないなど、従来の養蚕では季節的な制限があり、年間で 3 回程度の収穫しかできなかった。しかし、この山鹿工場では、桑葉を粉末にして貯蔵する設備と、飼育室の温度・湿度を一定に保てる校長設備を備え、年間を通して 24 回以上の収穫が可能となった。

※工場内は無菌室となっており、工場内は視察することはできなかった。

5 山鹿シルクの価値・魅力

大規模な周年無菌養蚕という世界初の試みに加えて、より高品質で高付加価値なものづくりを追求し、比類なき繭の生産を実現する。山鹿シルクの主な用途は、高質な長繊維として、スカーフや衣類向けに展開する従来の用途は勿論、山鹿で生産した日本産であることや無菌のクリーンなイメージを活用し、石鹸や化粧品、医薬品まで幅広い用途に向けた素材としての展開を目指す。加えて、100%余すところなく繭・蛹を活用することも目指している。

●周年生産の実現
●高効率生産による、供給量の拡大
●IoT 化等によるさらなる増産

—高効率—

+

●人工飼育による高い白度
●組換えカイコの飼育実験
●共同研究による改良推進

—オリジナリティー—

+

●100%ナチュラル
●完全無菌環境での生産
●飼育から繭まで全て山鹿産

—高品質—

6 今後の計画

山鹿工場の可能性は無限大である。近年急速に開発が進むカイコを活用した医薬品の開発、遺伝子組換えカイコの開発まで様々な取り組みが可能で、段階的に技術の高度化を図り、ゆくゆくは研究機関としても機能するような新たな養蚕に関わる全ての工程の実績を目指していく。

III 所見

残念ながら、農業生産法人(株)あつまる山鹿シルクの工場見学はかなわなかったが、天空桑園には瞠目させられた。25h の耕作放棄地を活用し、標高およそ 600 メートルの山頂に造成された、まさに天空の桑園である。桑の木の常識を破って、茶畑と同様の仕様に植栽された桑園はすべて機械によって葉が採取される。また、雑草予防のため、除草シートや、平成 29 年からはバークを敷設するなどして、農薬は一切使用していない。熊本大学との包括連携協定も締結され、多くの地元雇用や、地元にも居住するという状況も生み出している。山鹿市が負担した費用はハード面の整備のみであり、残りの費用は県の補助金と国庫補助・交付金を活用されている。今後は、民間と大学で進めていくという段階になっている。京丹後市でのシルクの取り組みにとって、学ぶべきことが多く、本市の所管部課長、担当者もさらに視察研修して研鑽すべきである。

『博多の食と文化の博物館』の施設見学

視察地 博多の食と文化の博物館

福岡市東区社領 2 丁目 14-28 (☎ 092-621-8989)

視察者 由利敏雄 藤田 太 和田正幸 水野孝典 以上 4 名

I 調査研修テーマ『博多の食と観光体験ができる施設』

II 視察内容

1 『博多の食と文化の博物館』施設管理者の思い

博多に生まれ、博多の街育まれながら、ともに歩んできた。私たちはこの街への感謝の気持ちを忘れずに、これからもともに発展していきたいとの願いから、数々の文化・スポーツイベントや伝統行事などへ積極的に協力し、地域貢献活動を続けている。



「博多の食と文化の博物館」<ハクハク>は福岡・博多が全国に誇る「食」と「文化」を広くお伝えすることで、地域をもっと盛り上げたいとの思いから誕生した博物館である。様々な展示や体験コーナー、博多の名産品やレアアイテムも揃うショップなどご用意しているので、ゆっくりと楽しんで頂きたい。知っていたつもりの福岡・博多の魅力がきっと発見できる。

2 施設としての果たす役割

福岡・博多の観光の楽しみを一同に体験できる

「博多の食と文化の博物館」ハクハク。観る・学ぶ・触れる・体験する・食べる・買う、を通じて福岡・博多の食文化を体験できる施設を目指している。



3 施設の概要

【施設管理者の説明】

【ミュージアム】

(1) 祭り=博多人の礼

博多祇園山笠・宮崎宮放生会・博多どんたく港まつりなど、博多の四季の祭りとその歴史が紹介されている。ダイナミックに演出された空間の中 3D 映像などで祭りの雰囲気を感じることができる。また、長い歴史と伝統を持つ郷土芸能「にわか雨」や、どんたく港まつりで有名なしゃもじ叩きを体験するエリアもある。

(2) 食=博多人の知恵

食のコーナーには、屋台風の展示スペースがある。有名な水炊き・博多ラーメン・もつ鍋など博多ならではの料理の紹介が屋台風のセットの中に書いてある。それぞれのメニューの情報を順番に読むと、まるで屋台をはしごする感覚で楽し

むことができる。

(3) 工芸=博多人の美学

落ち着いた雰囲気的空間で、美しい工芸品、
美術展を鑑賞することができる。

(4) 明太子の歴史や体験コンテンツ

クイズコーナー、誕生密話や歴史コーナー、
工場見学コーナー、体験コーナー



Ⅲ 所見

2013年4月にオープンした「博多の食と文化の博物館」<ハクハク>の見学を行った。施設は、明太子メーカー「ふくやのプロデュース」によるもので、「見る」「学ぶ」「買う」を通じて、福岡・博多の食の文化を体験する施設であった。福岡では食が観光の魅力となっており、その点において大変重要な民間の文化施設である。本市も含め全国各地では、伝統工芸品や地域の特産品などを展示する施設はあるが、食文化や祭りなどの無形のものを主体として展示する施設はあまり見たことがない。具像のものを展示する法が簡単に出来る手法であるが、この施設では、ビデオによる映像解説や3D映像による立体視展示、音響による演出など、新しい媒体を駆使し、様々な情報提供をすることで無形の展示物を見事に実現している。ここでも民間活力の大いなる息吹を感じた。博多の文化の魅力は、それを生み出し、支える博多の人々の魅力であると言える。ミュージアムでは「祭り」「食」「工芸」の魅力を楽しく紹介しながら、その文化に息づく「博多の人の心」を感じさせられた。

『博多織工芸館』の施設見学

視察地 博多織工芸館

福岡市西区小戸 3 丁目 51-22

(☎ 092-883-7077)

視察者 由利敏雄 藤田 太 和田正幸 水野孝典 以上 4 名

I 調査研修テーマ『博多織の歴史と手織体験ができる施設』

II 視察内容

1 『博多織工芸館』讃井勝彦代表取締役（株式会社サヌイ織物）の思い

伝統とは革新の連続。昔のものをそのまま作るとは「伝承」。時代が変わるように博多織も新たな風を吹き込み、変わり続ける。着物を着る機会が少なくなってしまった現代、博多織を産業として残していくために、「職」の技術・知識を活かし、現代のライフスタイルに適合した製品を創りだすことこそ、次世代へ博多織を受け継ぐ道だと考える。壁のクロスやギフト製品、緞帳や自動車シートなど、和装だけにとらわれない「博多織」のモノづくり。博多織の先達の想い、技術、チャレンジ精神をリスペクトし、博多織をさせていただいていることに感謝し、新たな挑戦を続ける。



【讃井勝彦代表取締役（左から2人目）】

2 施設としての果たす役割

博多織は、鎌倉時代から 770 年の歴史を誇る福岡の伝統工芸であり、その魅力が凝縮されたスポットである。江戸時代に織られた丹前など貴重な資料が満載の展示室をはじめ博多織の先達行程が間近で見られる織体験コーナーがある。福岡の伝統を見て、感じて、そして博多織を楽しむことができる施設である。

3 施設の概要

(1) 資料展示

館内には所狭しと博多織の歴史に関する資料が展示されている。時の政権である江戸幕府に献上された着物や江戸時代に使われていた柄や博多織とコラボしたウエディングドレスなど、さまざまな展示を見ることができる。



(2) 手織体験

博多織を織っていたおよそ 180 年前の手機（てばた）は今も動かすことができる。手機織体験は、比較的新しい手機で体験ができる。

(3) 工房見学

工房の中に入った途端、織機の音が響く。織機のリズミカルな音は独特で、案内していただいた讃井勝彦代表取締役は、織機の音がくせになると言われた。織機の音がクセになる工房見学ができる。



ア 使用している織機は機械式のレピア織機と呼ばれるもの。パソコンを使用して操っている。

イ 細い経糸（たていと）と太い緯糸（よこいと）を使用しているのが博多織の特徴。特に、経糸を多く使い浮かせることで見事な柄を出すことができる。

ウ 博多名物「にわかせんべい」とコラボした博多織もあり、一度見たら忘れられない柄が沢山ある。商品にするときは細かくカットしている。

(4) 商品販売

博多織の主流だった着物・帯ではなく、気軽に使える小物類が中心。財布、名刺入れ、髪飾り、ペンケース、小銭入れなどおしゃれな商品が沢山ある。スーツ、ネクタイ、帽子などもすべて博多織である。



II 所見

博多織は伝来 770 年の悠久の歴史をもつ織物である。丹後ちりめん創業 300 年の優に 2 倍以上に当たる。こうしたなかにあって、視察見学した博多織工芸館は、私企業である讃井織物の私設工芸館である。シルク、ポリエステルなどの素材製織から、多岐多品種にわたる工芸品や実用品の完成品にまで仕上げる、一貫した会社である。財布、印鑑入れ、ポシェット、ネクタイ、ポーチ、筆記具装飾、など枚挙にいとまがないほどの分野に応用、展開している。令和元年の新天皇即位の際の献上品「風神雷神あかんべえ雲の間の山笠図」や、トヨタの高級車レクサスのシート地の受注など、好機をつかみ、名声も高い。現社長は、丹後地方の織物業者とも交流のため、来丹されている。伝統を受け継ぎ、革新することを忘れない、讃井社長の心意気に感動したひとときであった。